

# 認知症のある人の個性表現に基づく 自立を重視した生活環境デザインの評価と分析

Evaluation and Analysis of design for life environment with a high regard for self-reliance  
based on the representation of a self of people with dementia

寺面 美香<sup>\*1</sup> 石川 翔吾<sup>\*1</sup> 桐山 伸也<sup>\*1</sup> 加藤 忠相<sup>\*2</sup> 井出 猛<sup>\*2</sup> 竹林 洋一<sup>\*1,3</sup>  
Mika Teramen Shogo Ishikawa Shinya Kiriyama Tadasuke Kato Takeshi Ide Yoichi Takebayashi

<sup>\*1</sup> 静岡大学  
Shizuoka University

<sup>\*2</sup> 株式会社あおいけあ  
Aoicare Co., Ltd.

<sup>\*3</sup> みんなの認知症情報処理学会  
Citizen Informatics for Human Cognitive Disorder

This paper describes the evaluation of design for life environment with a high regard for self-reliance based on the representation of a self of people with dementia. We have structured care records in a care home where is pioneering efforts to support people with dementia, and constructed a model of personality expression. The personality expression tree makes it possible to see the connection of the life data and to compare and analyze the record of each facility. The result shows that the tree was possible to objectively evaluate the record of the facility, and learning with tree introduction is effective for reforming the consciousness of care practitioners toward self-reliance support.

## 1. はじめに

認知症は、何らかの脳機能低下の要因による認知機能障害とそれにより生じる生活障害で定義される。認知症とともに生きるには、生活に支障が出る状況において適切な生活環境を整えられるよう支援する必要がある。多くの当事者が声を上げている[佐藤 14, 丹野 17]ように、認知症の症状は千差万別で、ゆえに、型にはまった支援方法があるわけではない。生活は個人ごとに異なるため、当事者のパーソナリティ、身体的状況や精神的状況、家庭や地域における暮らし方(本稿ではこれらを個性を構成する要素として捉える)を理解しながら支援につなげる必要がある。介護においては作成したケアプランにそった支援が行われるが、目標の立て方、支援のための記録の作り方やその使い方には方法論がない[日総 12]のが現状である。

そこで本稿では、認知症のある人の個性表現に基づき、自立を重視した生活支援の評価と分析について述べる。

## 2. 個性表現モデルの基本構造

### 2.1 個性情報の構造化

本稿では、生活支援を評価するために介護記録に着目する。介護現場では、生活支援のためのケアプランや利用者の特徴を表すフェイスシート、日々の記録等、様々な個性に関する情報がある。しかし、これらは介護業界全体で統一された指標があるわけではなく、独自のフォーマットや書き方の作法がある。そこで、記録と支援の関係を整理するために、個性に基づく自立支援において先駆的な取り組みを実施している介護施設の記録を分析し、記録の特徴を表現するための構造化を行った。以下に手順を示す。

- (1)介護施設で収集している利用者に関する情報の調査
- (2)スタッフ 20 名が参加し、生活支援情報の特徴を抽出する検討会の実施
- (3)抽出した生活支援に関する情報を[大久保 13]のキーワードを活用して KJ 法でグルーピング

(4)項目間の関係を ConceptNet [H Liu 04]を活用し構造化  
その結果、日々の変動の大きい日常生活動作(Activity of Daily Living: ADL)の把握以上にパーソナル情報の収集を重視することにより当事者を理解し寄り添う支援を実現させていることがわかった[寺面 18](図)。

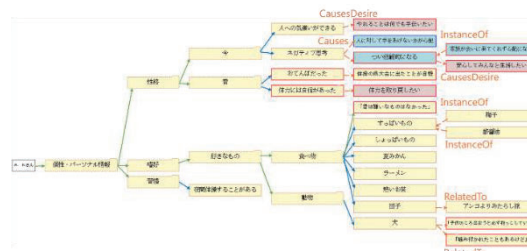
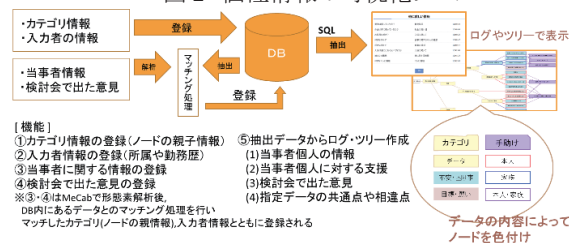


図 1 個性表現ツリー

### 2.2 個性情報可視化ツール

構造化した結果を元に情報の可視化ツールを作成した。ツールではデータベースにカテゴリ情報や入力者情報、当事者情報の登録を行うことで各情報のツリーやログを生成し状況を可視化することができる(図)。このツールを用いて施設のアセスメントの状況の評価・分析を行う。

図 2 個性情報の可視化ツール



## 3. 個性表現に基づく介護記録の評価

2.2節で作成したツールを活用し、施設ごとのデータを比較することで個性に基づいた生活支援の質を評価する。施設A、施設Bの二つの施設を対象に特定の利用者1名に関する施設の記録を収集し分析した。

連絡先: 寺面美香, 静岡大学, 静岡県浜松市中区城北 3-5-1, 053-478-1488, men@kirilab.net

図に比較結果を示す。①医療関係と②性格・嗜好に関する情報を可視化したものである。施設Bでは医療に関する項目は詳細に設定されており症状が丁寧に記載されている。それに対して、施設Aでは身体状況に関する本人の不安や家族の願いが表れるツリーとなった。また、施設Aでは性格・嗜好情報の収集を重視しており、味の好み等を細かく行っている他、それに関する本人の発言やエピソードも拾われている。施設Bでは性格や嗜好に関する記述はほとんど見られなかった(表)。このことから、施設Aは個性情報の中のパーソナリティに関することとその他のことを関係づけて支援をしており、当事者のこれまでの生活を踏まえながら自立支援に繋がっていると評価される。

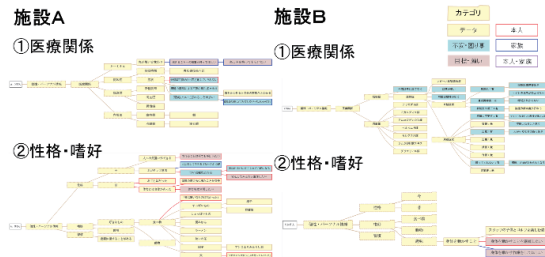


図3 施設A/施設Bの個性表現ツリー

表1 施設A/施設Bの個性情報に関するノード数

	施設A		施設B	
	①医療関係	②性格・嗜好	①医療関係	②性格・嗜好
ノードの深さ	7	7	8	6
全ノード数	18	26	30	4
本人の発言	0	6	0	0
本人の願い	0	3	0	1
本人の不安	1	2	0	0
家族の願い	2	0	0	1
家族の不安	1	1	0	0

4. 個性表現に基づくケース検討の分析

4.1 個性表現ツリーに基づく学習支援

個性表現ツリーが介護スタッフにどのような気付きを与えるかを検証するため、施設Bにて個性表現ツリーを用いた生活支援検討の場を設計した。12人の介護スタッフを3チームに分けグループワークを行い、個性表現ツリーを見ながら各項目に対して検討することとした。支援に関する検討として、以下の結果が得られた。

グループA:「できることはやってもらって、できていないことをサポートする形」と、ツリーから読み取れるケアに対して自立支援に繋がることをやっているという評価を行っていた。

グループB:「その場しのぎのケアが多い」と原因探索の必要性に対する議論が行われ、また、「個性が認知症に締められるのはおかしい」という評価も出ていた。

グループC:グループBと同様に「自立支援に向け成功事例や失敗事例の詳細を共有する必要がある」という議論がなされ、また、「本人の意向を無視して施設の都合の良ように動かしてしまっているかも」という意見も出ていた。

グループAと他のグループの意見が異なるが、これを全体で議論することによって考えが共有され、グループBやCの検討の方向で考えることが重要であると結論づけられた。以上のように、記録の意味や記録の作り方、活用の仕方について気づきが得られた結果が示された。

4.2 ConceptNetを用いた比較

生活支援は常識的思考が集約された場である。そこで、ConceptNetに着目し、実際の現場のケース会議における議論が、個性表現モデルと対応するかを分析することで支援の質の

評価につながるかを分析した。ConceptNet5のRelationに基づいて設計された個性表現ツリーに基づき施設Aと施設Bの議論をRelationの数で算出するとIsA,HasA以外の関係と数は表のようになった。グループBの議論で医療情報について触れられていたが、施設Bの医療情報はIsA,HasA,Causes関係のみで構成されていたのに対し、施設Aの医療情報では事象から引き出される望み(CausesDesire)や目標(MotivatedByGoal)が見て取れた(図4)。全体も思い(MotivatedByGoal, Desires), 原因探索(Desires, CausesDesire, ReceivesAction, ObstructedBy), 詳細化(InstanceOf, RelatedTo)に関わる記述が多くなっており、質の高い記録は単純なデータの数やノードの深さだけでなく情報の繋がりも重要となってくることが伺える。

以上のことから、個性を重視した介護記録を作るには利用者との関係を築いて人となりを理解することが重要となり、そこから見てきた本人や家族の意思の尊重・不安の解消を目指すことが質の高い自立支援に繋がることが示唆された。

①医療関係

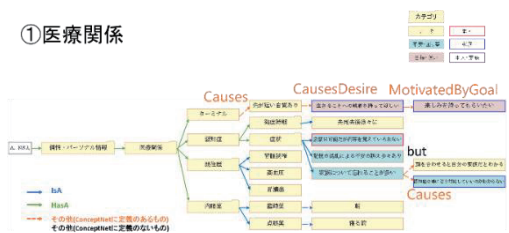


図4 ノードの関係記述(施設A①医療関係)

表2 施設A/施設Bのツリーで表出したノードの関係と数

ConceptNet 5 Relation URI	施設A	施設B
MotivatedByGoal	1	1
Desires	2	0
Causes	5	6
CausesDesire	5	3
ReceivesAction	1	0
ObstructedBy	3	1
InstanceOf	3	0
RelatedTo	5	1

5. おわりに

本稿では個性表現モデルの設計と、モデルを活用して生活環境デザインプロセスを分析した。モデルを個性表現ツリーとして可視化することにより客観的な比較・分析が可能となり、ツリーを導入した学習は質の高い支援に向けてのスタッフの意識変革を行うものとなった。生活環境デザインは、個性の理解と環境デザインに大別される。今後は、環境デザインの方法論も検討することで、自立重視の支援の実現に貢献したい。

参考文献

[H Liu 04] H Liu and P Singh: ConceptNet — a practical commonsense, BT Technology Journal, 2004.

[大久保 13] 大久保幸積, 他: 認知症ケアの視点が変わる「ひとときシート」活用ガイドブック, 認知症介護研究・研修東京センター, 2013.

[佐藤 14] 佐藤雅彦: 認知症になった私が伝えたいこと, 大月書店, 2014.

[丹野 17] 丹野智文: 丹野智文 笑顔で生きる -認知症とともに-, 文藝春秋, 2017.

[寺面 18] 寺面美香, 他: 認知症のある人の生活環境デザインのためのあおいけあナレッジの抽出と構造化, 2018 みんなの認知症情報学会, 2018.

[日総 12] 日本総合研究所: 介護支援専門員の資質向上と今後のあり方に関する調査研究ケアプラン詳細分析結果報告書, 2012.